



フィリピン

25 ロザリオ-プゴ-バギオ 道路修復事業

ルソン島北部の地震によって被害を受けたロザリオ～プゴ～バギオ間の道路修復および防災工事を行うことにより、マニラ首都圏からバギオ市への交通の安全性、利便性向上を図り、もって同地域の経済復興、観光産業振興に寄与する。

承諾額/実行額 46億3,300万円／39億6,800万円
 借款契約調印 1993年8月
 借款契約条件 金利3.0%、返済30年（うち据置10年）、一般アンタイド
 貸付完了 2001年12月



外部評価者 山下武（株）コーエイ総合研究所
 現地調査 2003年7月

評価結果

本事業では、ルソン島北部地震によって被害を受けた、ロザリオ～プゴ～バギオ間（約46km）の道路の起点部におけるバイパス建設、プゴ～バギオ間の災害箇所修復・防災工事等が行われた。期間は、台風の被害による工事対象箇所の増加等で、計画を上回ったが、事業費はほぼ計画通りであった。本事業によって、対象区間の安全性が向上するとともに災害時の交通が確保されたほか、ロザリオ～プゴ～バギオ間の通行時間についても、約80分から約60分へと短縮された。また、受益者調査からも安全性などについてプラスのインパクトがあったことが確認され、「危険はまったく感じない」と回答した人が事業実施前の0%から事業実施後には39%へと増加し、「非常に快適」あるいは「快適」と感じている利用者也34%から94%に上昇している。本道路が通過するコルディレラ行政地域（約183万ha、人口約137万人・川崎市の人口

約130万人）の2002年のGRDP（域内総生産）は、1990年から約2倍に増加しており、本道路は物流の活性化・効率化を促し、経済復興の下支えをしていると考えられる。また、大型バスの利用によって、バギオへの観光客は約32万人（93年）から02年には約110万人（岐阜県白川村への観光客数は約156万人）と3倍以上になっており、観光産業にも貢献している。実施機関である公共事業道路省（DPWH）の技術、体制、財務面については問題はない。

第三者意見

気象条件にかかわらず通行可能である本道路は、1991年に発生した地震後のバギオの復興に不可欠であり、観光やビジネス等コルディレラ地域の経済成長への貢献も大きい。

有識者 Mr. Ernesto D. Garilao

アジア経営学院修士課程修了（経営学）ハーバード大学修士課程修了（行政学）。
 元農地改革長官。現在アジア経営学院教授。専門は国家改革、制度開発など。

修復後のロザリオ-プゴ-バギオ道路と危険な状態にあるケノン道路



落石防護フェンスが張られたロザリオ-プゴ-バギオ道路



崖が道路にせり出しているケノン道路の現状

本事業によって修復がなされたロザリオ-プゴ-バギオ道路では、道路の安全性が総合的に高められている（左）。

一方、1990年の地震以前に主要道路であったケノン道路は、根本的な改修がなされていないため、雨季になると落石や地滑りが多発し、依然として危険な状態にある。最近も、2001年のフェリア台風により30カ所以上の区間が崩壊し、道路は40日間にわたって閉鎖され、公式な安全宣言がでるまでに6カ月もの時間が費やされた（右）。